

学校だより青南

4月号

令和5年4月6日

港区立青南小学校

校長 野口 直樹



思いやりの心をもって

校長 野口 直樹

3月23日には、95名の卒業生が、青南小学校での6年間の学びを終え、桜満開の一人一人が希望を胸に抱き中学校へと巣立っていきました。そして、花壇の花たちも色とりどりに咲く中、令和5年度が始まりました。期待に胸をふくらませ、目をきらきらと輝かせた1年生138名を迎えてのスタートです。

昨年度、青南小学校の教育活動のキャッチフレーズである「人間力」+「人間関係形成・社会参画・自己実現」+「自分自身にありがとう」=「いつでも どこでも 国際人青南の子」を掲げ教育活動を行ってまいりました。今年度も引き続き、このキャッチフレーズで子どもたちを育てていきたいと考えております。卒業式の式辞でも話したのですが、このキャッチフレーズは、私と同世代の卒業生の方も小学校の時に使っていたものです。この青南小学校が地域の誇りであることを表している言葉だと考えますので、しっかりと継承して行ってほしいと思います。

本校の学校教育目標は、○よく考える子 ○思いやりのある子 ○体をきたえる子の三つです。今年度は、この中でも、「思いやりのある子」を重点目標としていきます。思いやりの心は、子どもたちがもともと持っていると考えております。そして、それは、学校という社会の中で、自分以外の他者とのかかわりの中で、大きく育まれていくものであるとも考えます。様々な活動の中で、自分と違う考えや、感じ方を学級の中で友達と学習し過ごす中で学んでほしいと思っております。また、協働的な学習が、重要とされている中で、友達と協力して学習を進めたり行事に取り組んだりすることで、思いやりの心を育てながら、他者意識をもって様々な活動に取り組めるようにしていきたいと考えております。

令和5年度は、文部科学省や、3月31日の港区教育委員会からのメールにあった通りマスクの着用を求めないことを基本として学校生活を送ることになります。緊急事態宣言が出て、休校や分散登校になってから、ずっと人前でマスクを着けて生活をしてきました。そこからの大きな変化です。多くの子どもたちにとって、マスクをしない日常に戸惑いがあると思います。徐々に慣れていけるように見守っていきます。

コロナ禍で学んだことを生かしながら、以前の学校で行ってきたこと、子どもたちが経験できることを教職員一同、真心を込めて、誠実に子どもたちと向き合い、力を合わせて行ってまいります。保護者・地域の皆様のお力添えいただきますようお願いいたします。

4月の生活目標

【気持ちのよいあいさつをしよう】

生活指導主任

「あいさつ」には、①儀礼的な「あいさつ」②エチケットとしての「あいさつ」③コミュニケーションとしての「あいさつ」の3つの種類があると言われています。小学校ではどの種類のあいさつも学校生活の中で経験し、学び、身に付けていきますが、青南小学校では本年度もコミュニケーションとしての「あいさつ」を大切にしていきたいと思います。人との関わりは「あいさつ」から始まり段々と深まっていきます。新学期を素敵なあいさつがあふれる生活を送ってスタートできたらと思います。

新型コロナウイルス感染症対策により、大きい声を十分に出不せない中ですが、気持ちのこもったあいさつを交わし、「あいさつと笑顔あふれる青南小」の伝統を引き継ぎ、豊かな心を育てていきます。

心と体の健康を考える

養護教諭

入学・進級おめでとうございます。春風が心地よく希望あふれる春を迎え、青南小学校の新学期が始まりました。

4月から6月にかけて、定期健康診断を実施します。健康診断は現在のからだの様子を知り、学校生活を元気に過ごすためのものです。加えて、発育状況を知ることで自分の成長を実感し、自分や周りの人をより大切に思うきっかけにもなると考えています。

児童の心身の健康増進のために、御家庭の皆様にご協力いただきながら教職員一同、学校保健活動を行っていかれたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

